

## 鹿児島県菱刈町における高齢者の 日常生活に関するアンケート調査

### The Daily Life of the Aged in Hishikari-cho, Kagoshima Prefecture

土井順子・倉元綾子

Junko DOI and Ayako KURAMOTO

(Received October 1st, 1997)

#### 英文要旨

We investigated the daily life and the dietary habits of the aged by using questionnaires in Hishikari-cho, Kagoshima prefecture, in December 1996. We distributed 250 questionnaires; 187 completed questionnaires were returned: the recovery rate was 75%.

The results were as follows:

Sixty-two percent of the respondents presently had their spouses. Forty-five percent of the women lived alone, whereas 65% of the men lived with their wives. Their main incomes were from pensions, and the main expenditures were for food expenses and social expenses. They were mainly occupied with housekeeping, gardening and farming as their daily activities. They had lots of communication with friends, neighbors and relatives through food exchanges and outdoor sports. On the other hand, they had little communication with their children's families in daily life. Most of them paid attention to their health, being concerned with dietary habits, sleeping, exercises and living a regular life. The ratio of doing exercises was twice as high as that in the Ministry Health and Welfare national survey. Approximately half of the respondents had anxieties about their future, about health, losing spouse and the cost of living. Also nearly half of them wished to be taken care of by their children if they couldn't live by themselves.

## はじめに

現在、わが国では人口の急速な高齢化が進んでおり、1997年推計人口では65才以上の高齢者は1949万人、高齢化率15.5%<sup>1)</sup>とされている。こういったなかで、食生活は高齢者が健康な生活を営むための一層重要な問題となっている。

鹿児島県は日本のなかでも従来から高齢化率が高く、1997年3月現在の推計で全国第4位20.8%である<sup>2)</sup>。これは全国の高齢者人口が19.6%になると推測されている2005年の値よりもさらに高い<sup>3)</sup>。したがって、鹿児島県における高齢者の生活を調査することは日本全体の高齢者を予測することにつながる。筆者らは、鹿児島県のうち、本土の北部、薩摩半島にある鹿児島県菱刈町における高齢者の食生活および日常生活実態について調査した。結果の比較にあたっては鹿児島県のなかでは高齢化のすすんでいない地域である鹿児島市の1994年度の調査を用いた。

なお本稿では主に日常生活の実態について報告する。(食生活に関しては別途報告の予定である。)

## 調査方法

調査は1996年12月、質問紙法、留置法でおこなった。

対象は菱刈町在住の65歳以上の高齢者である。

調査内容は主として食生活についてであり、その他に健康、経済、日常生活についても合わせて調査した。

菱刈町調査では対象者数は250人、有効回収数187票、回収率75%であった。一方、鹿児島市調査は1994年12月にほぼ同様の方法・調査内容で行い、対象者数350人、有効回収数296票、回収率85%であった。

調査結果は単純集計、必要に応じてクロス集計をおこない、カイ2乗検定をおこなった。

## 菱刈町の概要

菱刈町は、鹿児島県薩摩半島北部に位置する。総面積はおよそ100 km<sup>2</sup>であり、農山村である。周囲には北西に大口市、東側に吉松市、栗野市、南西に薩摩町が接している。周りを山に囲まれており、川内川(全長137km、菱刈町19km)が町の中心部を東西に貫いて流れる。流域は盆地を形成し、肥沃な耕地(600ha 水田)となっている。特に鹿児島県における重要な稲作地帯で、伊佐米の産地である。近年は「金山ネギ」も特産物として生産されている。このような事情から、農業は町の基幹産業であり、農業に従事する割合は28%である<sup>4)</sup>。これは1995年の農業就業人口が全国で5.3%、九州で9.1%であるという値と比べてきわめて高い数値であ

る<sup>5)</sup>。このほか、菱刈金山の名で知られる金銀鉱脈があり、金の平均含有量60gで世界一を誇っている<sup>6)</sup>。

菱刈町は1995年10月現在で人口 10,621人；65歳以上の高齢者は 3,029人、高齢化率 28.5%であり<sup>7)</sup>、鹿児島県の中では2番目に高齢化率の高い地域グループに属している<sup>8)</sup>。これは全国の高齢化率がピークに達すると予測されている2050～2060年の推定高齢化率28%をさらに上回っている<sup>9)</sup>。2000年には人口 9,858人、65歳以上の高齢者は 3,119人、高齢化率31.6%と予測されている<sup>10)</sup>。菱刈町の過疎化の原因として、高校卒業後の就職先が町内、隣接市町になく、若者が流出していくことが挙げられる（1955年から1995年までの40年間で 41.8%の減少）<sup>7)</sup>。菱刈町が鹿児島県の中でも比較的高齢化率が高い原因としては、平均寿命の伸び、生産年齢層の流出、少子化、出生者数減少が挙げられる。

一方、鹿児島市は県庁所在地で、1995年現在の人口54万人<sup>11)</sup>、高齢化率12.8%<sup>12)</sup>である。

## 結果および考察

### 1. 属性

調査対象者の属性について検討した。

対象者は、男性52.1%、女性44.3%であった。平均年齢は男性75.5歳、女性72.9歳であった。配偶者の有無については、有配偶61.9%、無配偶32.0%であった。一般的に高齢者の女性は配偶者の無い場合が多いが、ここでも男女間に有意差があった。無配偶の男性は12.9%であったのに対し、女性は55.8%におよんだ。

表1に居住形態を示した。独居25.7%、一世代世帯（ほぼ夫婦世帯と同様）47.6%、二世帯世帯8.6%、三世帯世帯9.1%であった。独居および一世代世帯の高齢者のみ世帯が全体の73.3%を占めていた。また独居の場合、その期間は平均14.1年であった。

表1 居住形態

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計(%) (n=187)	計(%) (n=296)		男(%) (n=101)	女(%) (n=86)		男(%) (n=104)	女(%) (n=192)	
①独居	25.7%	24.7%		8.9%	45.3%	**	8.7%	33.3%	**
②一世代世帯	47.6%	40.5%		65.3%	26.7%	**	58.7%	30.7%	**
③二世帯世帯	8.6%	19.9%	*	7.9%	9.3%		15.4%	22.4%	
④三世帯世帯	9.1%	6.8%		7.9%	10.5%		6.7%	6.8%	
⑤その他	2.7%	0.7%		3.0%	2.3%		0.0%	1.0%	
無回答	6.4%	7.4%		6.9%	5.8%		10.6%	5.7%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

この結果は鹿児島県が全国一位の高齢者核家族率であって、1990年で高齢者夫婦世帯が15.1% (全国平均 8.5%)、単身高齢者世帯12.0% (全国平均 5.5%) であること<sup>13)</sup>を改めて示している。これは、65歳以上の高齢者の場合、子と同居が56.4%であるという全国的平均値<sup>14)</sup>とは大きく異なっている。

さらに、配偶者の有無にしたがって居住形態を調べたところ、有配偶では一世代世帯が73.7%、無配偶では独居が68.9%であった。また男女別にみると、女性で独居が、男性で一世代世帯が有意に多く、この傾向は鹿児島市でも同様であった。このような傾向は、子供または子供夫婦と同居の割合が有配偶者で50.7%、無配偶者で65.3%という全国の平均的値<sup>15)</sup>とは著しい違いをみせている。

菱刈町の高齢者の居住年数は平均44.4年で、鹿児島市の平均28.3年に比べ長かった。

## 2. 経済状況

次に経済状況について調べた。

表2に示すように、収入の種類は多い順に、国民年金、厚生年金、恩給、自営、その他の年金、仕送り・小遣い、給与の順である。年金生活者は合計87.6%であった。これは一般に高齢者の場合、公的年金、恩給が収入に占める割合が高いという傾向<sup>16)</sup>とよく一致している。さらに鹿児島市と比較すると、菱刈町では厚生年金、利子・家賃収入が有意に低かった。また、自営は男性が有意に多く、国民年金は女性が有意に多い。これらのことから、菱刈町における高齢者の現金収入が総じて低く、また男性に比べ女性の方が経済的に厳しい状況におかれていることが推測される。

表2 収入の種類 (複数回答)

	菱刈		有意差	鹿児島		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計 (%) (n=187)	計 (%) (n=296)		男 (%) (n=101)	女 (%) (n=86)		男 (%) (n=104)	女 (%) (n=192)				
①給与	2.7%	7.1%		2.0%	3.5%		7.7%	6.8%				
②自営	17.1%	10.1%		26.7%	5.8%	**	17.3%	6.3%	*			
③厚生年金	26.2%	42.9%	**	28.7%	23.3%		43.3%	42.7%				
④国民年金	68.4%	57.8%		65.3%	72.1%		42.3%	66.1%	**			
⑤その他の年金	17.1%	15.9%		20.8%	12.8%		19.2%	14.1%				
⑥恩給	23.0%	16.9%		24.8%	20.9%		19.2%	15.6%				
⑦仕送り・小遣い	3.2%	5.7%		3.0%	3.5%		2.9%	7.3%				
⑧利子・家賃収入	2.1%	9.8%	*	3.0%	1.2%		7.7%	10.9%				
⑨その他	0.5%	3.0%		0.0%	1.2%		1.9%	3.6%				
無回答	4.8%	0.7%	*	2.0%	8.1%		1.0%	0.5%				

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

次に、支出について質問したところ、表3に示すように、食費が63.1%、交際費が41.7%が多かった。次いで、子や孫の小遣い7.0%、住居費3.7%、被服費2.1%、貯蓄1.1%の順であった。食費が最も多くあげられているのは、一般に高齢者においては支出のうち食費が最も多いこと<sup>17)</sup>とよく合致している。また、菱刈町では鹿児島市に比べ交際費が有意に多いが、むしろこれは高齢者における支出の一般的傾向<sup>18)</sup>とよく合致しており、後に示すように菱刈町における日常のつきあいが活発であることなど関係しているものと考えられる。

### 3. 日常生活

次に日常生活の様子を調べた。

日常の仕事について質問したところ、表4のようになった。多いものは、家事一般、庭・住居の手入れ、畑仕事・農業であった。これに対し鹿児島市は留守番、孫の世話、配偶者の世話がかった。菱刈町では鹿児島市に比べ、畑仕事・農業が有意に多く、約1/3であった。こ

表3 支出で大きいもの（複数回答）

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計 (%)	計 (%)		男 (%)	女 (%)		男 (%)	女 (%)	
	(n=187)	(n=296)		(n=101)	(n=86)		(n=104)	(n=192)	
①食費	63.1%	59.1%		70.3%	54.7%		64.4%	56.3%	
②被服費	2.1%	3.0%		1.0%	3.5%		1.9%	3.6%	
③住居費	3.7%	5.7%		5.9%	1.2%		6.7%	5.2%	
④交際費	41.7%	22.0%	**	36.6%	47.7%		13.5%	26.6%	*
⑤貯蓄	1.1%	7.1%	*	1.0%	1.2%		5.8%	7.8%	
⑥子や孫の小遣い	7.0%	7.8%		5.9%	8.1%		9.6%	6.8%	
⑦その他	4.3%	3.4%		5.9%	2.3%		3.8%	3.1%	
無回答	6.4%	3.4%		2.0%	11.6%	*	1.0%	4.7%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

表4 日常の仕事（複数回答）

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計 (%)	計 (%)		男 (%)	女 (%)		男 (%)	女 (%)	
	(n=187)	(n=296)		(n=101)	(n=86)		(n=104)	(n=192)	
①家事一般	57.2%	57.8%		40.6%	76.7%	**	23.1%	76.6%	***
②留守番	8.6%	17.6%	*	6.9%	10.5%		14.4%	19.3%	
③孫の世話	2.7%	9.8%	*	2.0%	3.5%		2.9%	13.5%	*
④庭く住居の手入れ	52.4%	41.2%		50.5%	54.7%		43.3%	40.1%	
⑤配偶者の世話	3.7%	12.2%	*	2.0%	5.8%		7.7%	14.6%	
⑥家業の手助け	15.5%	9.1%		18.8%	11.6%		14.4%	6.3%	
⑦畑仕事、農業	34.2%	12.8%	**	44.6%	22.1%	**	19.2%	9.4%	
⑧なにもしてない	9.1%	8.8%		8.9%	9.3%		14.4%	5.7%	*
⑨その他	16.6%	11.5%		18.8%	14.0%		16.3%	8.9%	
無回答	3.7%	0.0%	*	3.0%	4.7%		0.0%	0.0%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

表5 余暇のすごしかた (複数回答)

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計 (%)	計 (%)		男 (%)	女 (%)		男 (%)	女 (%)	
	(n=187)	(n=296)		(n=101)	(n=86)		(n=104)	(n=192)	
①テレビ、ラジオ、新聞	79.7%	76.7%		79.2%	80.2%		76.9%	76.6%	
②趣味を楽しむ	35.8%	45.3%		29.7%	43.0%		48.1%	43.8%	
③孫の相手	1.6%	7.8%	*	2.0%	1.2%		5.8%	8.9%	
④家族と一緒に過ごす	7.5%	17.2%	*	10.9%	3.5%		17.3%	17.2%	
⑤旅行をする	10.2%	15.9%		13.9%	5.8%		14.4%	16.7%	
⑥友人、知人になどとつきあう	39.6%	38.5%		26.7%	54.7%	**	24.0%	46.4%	**
⑦運動をする	32.6%	16.6%	**	39.6%	24.4%		20.2%	14.6%	
⑧知識や教養を高める	17.1%	18.6%		19.8%	14.0%		20.2%	17.7%	
⑨その他	4.3%	5.7%		4.0%	4.7%		5.8%	5.7%	
無回答	1.1%	0.3%		0.0%	2.3%		0.0%	0.5%	

\*\*\*: p&lt;0.01, \*\*: p&lt;0.05, \*: p&lt;0.10

これらの結果は菱刈町の高齢者が鹿児島市に比べ、活動的な日常生活を送っていることを示唆している。また、男女別では、家事一般は女性が有意に多く、畑仕事・農業は男性が有意に多かった。

また余暇の過ごし方について質問したところ、表5に示すように、多い順に、テレビ、ラジオ、新聞などで過ごす 79.4%、友人、知人などつきあう 39.2%、趣味を楽しむ 34.5%、運動をする 32.5%であった。運動をする割合は菱刈町で有意に高く、孫の相手をしたり、家族と一緒に過ごす割合は鹿児島市が有意に高かった。

ところで、今後一層高齢化が進むことが予想されるなかで、高齢者が地域社会と積極的にかかわって、能動的、活動的に日常生活を送ることの重要性が生活の質に影響を及ぼすことが指摘されている<sup>19)</sup>。そこで、菱刈町の高齢者の日常のつきあいの様子などを検討した。その結果、各項目の「はい」および「どちらかといえばはい」の割合は表6のようになった。菱刈町では、友達、親戚、近所とのつきあい、ニュースへの関心はいずれも活発であった。特に近所や友達とのつきあいは、鹿児島市と比較して有意に高い値を示しており、都市より町村ほど、また居住年数が長いほど近所づきあいが活発であるという他の調査結果<sup>20)</sup>とよく一致していた。一方、子供との交流は鹿児島市と比較して有意に低かった。

表6 日常のつきあい — 「はい」、「どちらかといえばはい」の割合—

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計(%) (n=187)	計(%) (n=296)		男(%) (n=101)	女(%) (n=86)		男(%) (n=104)	女(%) (n=192)	
①子供との交流	65.2%	91.6%	**	64.4%	66.3%		91.3%	91.7%	
②友達つき合い	87.7%	84.5%	*	86.1%	89.5%		78.8%	87.5%	*
③親戚つき合い	79.1%	87.8%		74.3%	84.9%		87.5%	88.0%	
④近所つき合い	89.8%	50.3%	***	85.1%	95.3%		45.2%	53.1%	
⑤ボランティア活動	37.4%	30.7%		40.6%	33.7%		37.5%	27.1%	*
⑥ニュースへの関心	85.0%	92.9%	*	83.2%	87.2%		97.1%	90.6%	*

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

表7 健康への心がけの内容（複数回答）

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計(%) (n=161)	計(%) (n=275)		男(%) (n=91)	女(%) (n=70)		男(%) (n=95)	女(%) (n=180)	
①栄養・食事	77.0%	66.2%		75.8%	78.6%		52.6%	73.3%	*
②睡眠・休養	63.4%	75.3%	*	62.6%	64.3%		68.4%	78.9%	
③体操や散歩などの運動	55.3%	54.2%		59.3%	50.0%	*	57.9%	52.2%	
④規則正しい生活	46.6%	56.7%		45.1%	48.6%		55.8%	57.2%	
無回答	0.6%	7.3%	*	0.0%	1.4%		9.5%	6.1%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

#### 4. 健康

##### 1) 健康のために心がけていること

次に、現在の健康状態について尋ねたところ、83.9%が、非常に健康、まあまあ健康と回答した。さらに「健康のために心がけていることがあるか」と尋ねたところ、86.1%が「はい」と回答した。

そこで、その内容について重複を許して回答を求めたところ、表7のようになった。多い順に、栄養・食事 77.0%、睡眠・休養 63.4%、運動 55.3%、規則正しい生活 46.6%であった。これは、高齢者が重視しているのは、規則正しい食事80%、睡眠70%、腹八分め60%、うす味55~60%、バランスのとれた食事50~55%、運動30%、レクリエーション25%という全国的傾向<sup>21)</sup>と類似している。とりわけ「運動をする」の割合は55.3%で、60才以上で27.0%という全国的な値<sup>22)</sup>に比べ2倍に達している。これは運動習慣のある人では食事バランスが良好であるという調査結果<sup>23)</sup>などから考える時、好ましい傾向である。また運動の種類は、菱刈町ではゲートボールが50.6%と有意に多く、一方鹿児島市は散歩が有意に多かった。

表8 運動をする理由 (複数回答)

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計 (%) (n=89)	鹿児島 計 (%) (n=149)		男 (%) (n=54)	女 (%) (n=35)		男 (%) (n=55)	女 (%) (n=94)	
①健康のため	79.8%	—		83.3%	74.3%		—	—	
②楽しみ	40.4%	40.9%		42.6%	37.1%		45.5%	38.3%	
③気分転換	41.6%	38.9%		38.9%	45.7%		34.5%	41.5%	
④友人、仲間との交流	49.4%	23.5%	*	59.3%	34.3%	*	16.4%	27.7%	
⑤その他	0.0%	13.4%	**	0.0%	0.0%		14.5%	12.8%	

注) 鹿児島市調査では「健康のため」については調査していない。

\*\*\*:  $p < 0.01$ , \*\*:  $p < 0.05$ , \*:  $p < 0.10$

さらに運動をする理由について質問したところ、表8のようになった。多い順に、健康のため 79.1%、友人・仲間との交流 48.4%、気分転換 40.7%、楽しみ 39.6% であった。友人・仲間との交流の割合が鹿児島市と比較して有意に高く、ここでも菱刈町の高齢者が近所づきあい、仲間づきあいを重視していることがうかがわれる。

以上のように、菱刈町の高齢者の日常生活は畑仕事をはじめとする労働を中心としていて活動的である。また、居住している期間が長いこともあって、日常のつきあいは非常に活発であった。

## 5. 将来について

### 1) 将来への不安

高齢期の不安として第一に挙げられるものは、自分や配偶者の健康面の不安であろう。寝たきり、痴呆性老人等の要介護老人の発生状況は厚生省の推計によると1993年で200万人であり、65歳以上人口の約12%になっている<sup>24)</sup>。さらに近年、同居率の減少傾向に伴い高齢者夫婦世帯や高齢者単独世帯の割合が増加しており、高齢期の扶養や介護は大きな課題である。先にも示したように、鹿児島県は全国一位の高齢者核家族率であり、菱刈町における今回の調査結果でも、高齢者単独世帯および高齢者夫婦世帯の割合は73.3%と全国の平均を大きく上回っていた。そこで将来への不安について調べた。

「将来について不安なことがあるか」という問に対しては、「はい」49.5%、「いいえ」35.6%であった。「はい」の割合は、全国の30歳以上60歳未満を対象とした調査で約89.2%<sup>25)</sup>、鹿児島県の65歳以上を対象とした調査で72.0%という結果<sup>26)</sup>などと比べると非常に低い。さらに不安の内容について重複を許して質問したところ、表9に示すように、健康 77.9%、配偶者に先立たれる(先立たれた)こと 43.2%、生活費 24.2%、面倒をみてくれる人がいない 10.5%であった。これは他の調査の結果<sup>27)</sup>ともよく一致していた。



表9 将来への不安（複数回答）

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計(%) (n=95)	計(%) (n=124)		男(%) (n=49)	女(%) (n=46)		男(%) (n=46)	女(%) (n=78)	
①健康	77.9%	91.1%	*	81.6%	73.9%		87.0%	93.6%	
②生活費	24.2%	50.0%	**	26.5%	21.7%		76.2%	34.6%	**
③配偶者に先立たれること	43.2%	41.1%		46.9%	39.1%		39.1%	42.3%	
④安心して住める住居がない	1.1%	29.0%	**	2.0%	0.0%		21.7%	33.3%	
⑤面倒をみてくれる人がいない	10.5%	7.3%		8.2%	13.0%		6.5%	7.7%	
⑥その他	10.5%	4.0%		14.3%	6.5%		4.3%	3.8%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

表10 将来の生活，だれの世話になりたいか

	菱刈		有意差	菱刈		有意差	菱刈		有意差	鹿児島		有意差
	計(%) (n=187)	計(%) (n=296)		男(%) (n=101)	女(%) (n=86)		子と別居 (%) (独居、二世帯世帯) (n=141)	子と同居 (%) (二世帯、三世帯世帯) (n=32)		男(%) (n=104)	女(%) (n=192)	
①子供の世話になる	47.1%	58.1%		48.5%	45.3%		39.0%	78.1%	**	56.7%	58.9%	
②誰かに助けてもらいながら自宅で生活する	23.0%	24.3%		21.8%	24.4%		23.4%	12.5%		23.1%	25.0%	
③施設などに入る	24.6%	14.9%	*	24.8%	24.4%		24.1%	6.3%		15.4%	14.6%	
④その他	0.0%	2.0%		0.0%	0.0%		4.3%	0.0%		2.9%	16.6%	
無回答	9.6%	5.4%		8.9%	10.5%		9.2%	3.1%		4.8%	5.7%	

\*\*\*: p<0.01, \*\*: p<0.05, \*: p<0.10

## 2) 将来の生活

次いで、今後食事作りや日常の買い物ができなくなったとき、どうしたいと考えているかをたずねた。その結果、表10に示すように、子供の世話になるが47.1%と最も多く、次いで施設などに入る 24.6%、誰かに助けてもらいながら自宅で生活する 23.0%の順になった。これは、国民生活白書が同様の調査を行った結果、「自宅に留まる」が約60%であった<sup>28)</sup>のとは大きく異なっている。また家族構成別にみると「子供の世話になる」は子と別居している世帯（独居、一世帯世帯）よりも、子と同居している世帯（二世帯、三世帯世帯）の方が有意に多かった。一方、「施設などに入る」「誰かに助けてもらいながら自宅で生活する」を合わせた割合は、子と別居している世帯の方が有意に高くなっていた（図には示さない）。

## 要約

1996年12月、鹿児島県菱刈町の65歳以上の高齢者を対象に日常生活および食生活に関するアンケートをおこなった。有効回収数187、回収率75%であった。

結果の概要は次の通りである。

- (1) 対象者のうち男性は52.1%、女性は44.3%であった。有配偶者は62%であった。女性の46%が独居であり、男性の65%が夫婦世帯であった。
- (2) 主な収入は各種年金、主な支出は食費と交際費であった。
- (3) 日常の主な仕事は、家事一般、庭・住居の手入れ、畑仕事・農業であった。また余暇は、友人、知人などつきあったり、テレビ、ラジオ、新聞などで過ごしていた。
- (4) 食事、睡眠、運動、規則正しい生活など健康に気をつけており、特に運動するものの割合は全国の値と比較して約2倍と高かった。
- (5) 将来に対して不安を感じているのは約半数で、全国平均よりはるかに低かった。また将来自立して日常生活を営むことができなくなった場合、約半数が子供の世話になることを希望していた。

以上のように菱刈町の高齢者は、日常生活を積極的に営み、健康や食生活に対する意識も高く、将来に対する不安も比較的低いことがわかった。

今後さらに聞き取り調査などをおこない、さまざまな側面から検討していきたい。

## 謝辞

さいごに、本調査にあたってご協力いただきました菱刈町および鹿児島市の関係諸機関に深く感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 総務庁統計局：平成9年5月1日現在男女・年齢階級別全国推計人口 (1997)
- 2) 総務庁統計局：住民基本台帳調査 (1997)
- 3) 総務庁：平成9年版高齢社会白書, 17, 大蔵省印刷局 (1997) [原資料：厚生省国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成9年1月推計)(中位推計)]
- 4) 菱刈町：第3次菱刈町総合振興計画, 5 (1995)
- 5) 農林水産大臣官房調査課：平成8年度農業白書付属統計表, 31, 農林統計協会 (1997)

[原資料：総務庁「労働力調査」]

- 6) 前掲, 第3次菱刈町総合振興計画, 4 (1995)
- 7) 同上, 18
- 8) 鹿児島県：鹿児島すこやか長寿プラン—鹿児島県老人保健福祉計画—, 16, 鹿児島県 (1994)
- 9) 経済企画庁：平成6年版国民生活白書—実りある長寿社会に向けて, 4, 大蔵省印刷局 (1994)  
[原資料 厚生省人口問題研究所：日本の将来推計人口 平成4年 (1992) 9月推計]
- 10) 菱刈町：めざせ豊かな長寿社会 自立・参加・協力—高齢者保健福祉計画, 9, 菱刈町役場住民課福祉係 (1993)
- 11) 鹿児島県高齢者対策課：平成7年3月末日現在市町村調査 (住民基本台帳による) (1995)
- 12) 同上
- 13) 総務庁統計局：平成2年国勢調査 (1990)
- 14) 前掲：国民生活白書, 66, 67 [原資料 厚生省：平成5年 (1993) 国民生活基礎調査, 大蔵官房統計情報部]
- 15) 同上, 76 [原資料：平成5年国民生活基礎調査]
- 16) 厚生省：平成5年国民生活基礎調査, 大臣官房統計情報部
- 17) 前掲, 国民生活白書, 239, 408
- 18) 同上, 239 [原資料 総務庁：平成5年 (1993) 家計調査]
- 19) 同上, 68
- 20) 同上, 68 [原資料 総務庁老人対策室：平成5年 (1993) 高齢者の地域社会への参加に関する調査, 7, 8 (1994) ]
- 21) 同上, 159 [原資料 厚生省：平成元年 (1990) 中高年の生活実態—国民生活基礎調査特殊報告]
- 22) 厚生省保健医療局健康増進栄養課：平成6年版国民栄養の現状—平成4年 (1992) 国民栄養調査成績—, 118, 第一出版 (1994)
- 23) 厚生省保健医療局健康増進栄養課：平成4年版国民栄養の現状—平成2年 (1990) 国民栄養調査成績—, 48—49, 第一出版 (1992)
- 24) 前掲, 国民生活白書, 17—18
- 25) 同上, 57
- 26) 前掲, 鹿児島県：鹿児島すこやか長寿プラン, 18, 鹿児島県 (1994)
- 27) 総務庁長官官房老人対策室：平成7年高齢者一人暮らし・夫婦世帯に関する調査結果, 16, 総務庁 (1995)
- 28) 前掲, 国民生活白書, 145